

二九四七番

思おもひにし 余あまりにしかば すべをなみ 我われは言いひ
てき 忌いむべきものを

二九四八番

明あ日すの日は その門かど行ゆかむ 出いでて見みよ 恋こひた
る姿すがた あまた著しるけむ

二九四九番

うたて異けに 心こころいぶせし 言こと計はかり よくせ我わが
背せ子こ 逢あへる時ときだに

二九五〇番

我わ妹ぎ子もが 夜よ戸と出での姿すがた 見みてしより 心こころ空そらなり
地つちは踏ふめども